

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	アジルバ錠 20mg	市販直後調査 平成24年5月～平成24年11月
(英名)	Azilva Tablets 20mg	
(規格・含有量)	20mg/1錠 1錠中、有効成分アジルサルタン 20mg を含有	
(一般名)	アジルサルタン錠	
(メーカー名)	武田	
【薬価収載日】	2012年4月	
【薬価】	1錠:136.90円	
【薬効コード】	872149	
【薬効分類名】	持続性AT1レセプターブロッカー	
効能・効果	高血圧	
用法・用量	通常、成人にはアジルサルタンとして20mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最大投与量は40mgとする。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	
相互作用	本剤他剤副作用増強 アルドステロン拮抗剤・カリウム保持性利尿剤（スピロラクトン、トリアムテレン、エプレレノン等）、カリウム補給剤（塩化カリウム等）、非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）・COX-2選択的阻害剤（インドメタシン等） 他剤副作用増強 リチウム 本剤他剤作用増強 利尿降圧剤（フロセミド、トリクロルメチアジド等） 本剤作用減弱 非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）・COX-2選択的阻害剤（インドメタシン等）	
副作用	重大な副作用 血管浮腫、ショック、失神、意識消失、急性腎不全、高カリウム血症 その他 めまい、頭痛、血中カリウム上昇、血中尿酸上昇、下痢、ALT・ASTの上昇、BUN・クレアチニンの上昇、血中CK（CPK）上昇	

(薬品名)	カンサイダス点滴静注用 50mg	劇 市販直後調査 平成24年4月～平成24年10月
(英名)	Cancidas for Intravenous Drip Infusion	
(規格・含有量)	50mg1瓶 1バイアル中にカスポファンギンとして54.6mgを含有	
(一般名)	カスポファンギン酢酸塩	
(メーカー名)	MSD	
【薬価収載日】	2012年4月	
【薬価】	1瓶:16,256円	
【薬効コード】	876179	
【薬効分類名】	キャンディン系抗真菌剤	
効能・効果	①真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ②カンジダ属又はアスペルギルス属による下記の真菌感染症 ・食道カンジダ症 ・侵襲性カンジダ症 ・アスペルギルス症（侵襲性アスペルギルス症、慢性壊死性肺アスペルギルス症、肺アスペルギローマ）	
用法・用量	①真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 通常、成人にはカスポファンギンとして投与初日に70mgを、投与2日目以降は50mgを1日1回投与する。本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。 ②カンジダ属又はアスペルギルス属による下記の真菌感染症・食道カンジダ症 通常、成人にはカスポファンギンとして50mgを1日1回投与する。本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。	

	・侵襲性カンジダ症、アスペルギルス症 通常、成人にはカスポファンギンとして投与初日に70mgを、投与2日目以降は50mgを1日1回投与する。 本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	本剤他剤副作用増強 シクロスポリン 本剤作用増強 シクロスポリン、リファンピシン 本剤作用減弱 エファピレンツ、ネビラピン、フェニトイン、デキサメタゾン、カルバマゼピン、リファンピシン 他剤作用減弱 タクロリムス
副作用	重大な副作用 アナフィラキシー様症状、肝機能障害 その他 ALT・ASTの上昇、好酸球数増加、高血圧、悪寒、発熱

(薬品名)	ボナロン点滴静注バッグ 900μg	劇 市販直後調査 平成24年5月～平成24年11月
(英名)	Bonalon Bag for Infusion 900μg	
(規格・含有量)	900μg/1袋 100mL中	アレンドロン酸ナトリウム水和物 1175μg (アレンドロン酸として900μg) 含有
(一般名)	アレンドロン酸ナトリウム水和物	
(メーカー名)	帝人ファーマ	
【薬価収載日】	2012年4月	
【薬価】	1袋:4,498円	
【薬効コード】	873999	
【薬効分類名】	骨粗鬆症治療剤	
効能・効果	骨粗鬆症	
用法・用量	通常、成人には4週に1回アレンドロン酸として900μgを30分以上かけて点滴静脈内投与する。	
禁忌	①本剤の成分あるいは他のビスホスホネート系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者 ②低カルシウム血症の患者	
副作用	重大な副作用 肝機能障害、黄疸、低カルシウム血症、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、顎骨壊死・顎骨髄炎、大腿骨転子下及び近位大腿骨骨幹部の非定型骨折	

削除医薬品通知

●7月1日より

トランデート錠 50mg	削除
イセパシン注射液 200mg	削除
リドカイン静注用 2%シリンジ	削除
ゼスタッククリーム 50g	削除

規格追加通知

今回採用医薬品

●7月2日より

ラミクタール 100mg

適応追加通知

フィニパックス点滴静注用 0.5g	<p>化膿性髄膜炎</p> <p>通常、小児にはドリペナムとして1回20mg(力価)/kgを1日3回、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1回40mg(力価)/kgまで増量することができる。ただし、投与量の上限は1回1.0g(力価)までとする。</p>
ピクシリン注射用 1g	<p><適応菌種></p> <p>アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、リステリア・モノサイトゲネス</p> <p><小児></p> <p>通常、小児にはアンピシリンとして1日100~200mg(力価)/kgを3~4回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射し、点滴静注による場合は、輸液に溶解して用いる。なお、症状・病態に応じて適宜増量とするが、投与量の上限は1日400mg(力価)/kgまでとする。</p> <p><新生児></p> <p>通常、新生児にはアンピシリンとして1日50~200mg(力価)/kgを2~4回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射し、点滴静注による場合は、輸液に溶解して用いる。</p>
ナゾネックス点鼻液 50µg	<p>アレルギー性鼻炎</p> <p><小児></p> <p>通常、12歳未満の小児には、各鼻腔に1噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日100µg)。</p> <p>通常、12歳以上の小児には、各鼻腔に2噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日200µg)。</p>
ケイツーシロップ 0.2%	<p>新生児・乳児ビタミンK 欠乏性出血症の予防</p> <p>通常、出生後、哺乳が確立したことを確かめてから、1回1mL(メナテレノンとして2mg)を経口投与する。その後、2回目として生後1週間又は産科退院時のいずれか早い時期、3回目として生後1ヵ月時にそれぞれ1回1mLを経口投与する。</p>
タイロゲン筋注用 0.9mg	<p>分化型甲状腺癌で甲状腺全摘又は準全摘術を施行された遠隔転移を認めない患者における残存甲状腺組織の放射性ヨウ素によるアブレーションの補助。</p> <p>本品1バイアルに日局注射用水1.2mLを加えて溶解し、その1mL(ヒトチロトロピンアルファ(遺伝子組換え)として0.9mg)を臀部筋肉内に24時間間隔で2回投与する。</p>
アブレゾリン散「チバ」 10% アブレゾリン注射用 20mg	<p>本態性高血圧症、妊娠高血圧症候群による高血圧</p>